

補足 — 密度関数（または，確率密度関数）

一様分布 (Uniform Distribution)：確率変数 X は a と b の間の値をとる。このとき，確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は，

$$f(x) = \begin{cases} \frac{1}{b-a} & a < x < b \text{ について} \\ 0 & \text{その他} \end{cases}$$

となる。ただし， $a < b$ とする。

密度関数になるための条件（講義ノート P.67，2,3 行）を確認する。

- $f(x) \geq 0$ （明らか）

$$\bullet \int f(x)dx = 1 \implies \int_{-\infty}^{\infty} f(x)dx = \int_a^b \frac{1}{b-a} dx = \left[\frac{1}{b-a} x \right]_a^b = 1$$

指数分布 (Uniform Distribution) : 確率変数 X は 0 より大きい値をとる。このとき, 確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は,

$$f(x) = \begin{cases} \lambda e^{-\lambda x} & x > 0 \text{ について} \\ 0 & x \leq 0 \text{ について} \end{cases}$$

となる。ただし, $\lambda > 0$ とする。

密度関数になるための条件 (講義ノート P.67, 2,3 行) を確認する。

$$\bullet f(x) \geq 0 \text{ (明らか)}$$

$$\bullet \int f(x)dx = 1 \implies \int_{-\infty}^{\infty} f(x)dx = \int_0^{\infty} \lambda e^{-\lambda x} dx = [-e^{-\lambda x}]_0^{\infty} = 1$$

$$(*) y = e^x \text{ のとき, } \frac{dy}{dx} = e^x$$

$$(**) y = f(g(x)) \text{ のとき, } \frac{dy}{dx} = g'(x)f'(g(x))$$

正規分布 (Normal Distribution) : 確率変数 X は $-\infty$ から ∞ の値をとる。このとき, 確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は,

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \exp\left(-\frac{1}{2\sigma^2}(x - \mu)^2\right)$$

となる。

密度関数になるための条件 (講義ノート P.67, 2,3 行) を確認する。

- $f(x) \geq 0$ (明らか)
- $\int f(x) \mathbf{d}x = 1$ (証明略, かなり難しい)

(*) $e^x = \exp(x)$

カイ二乗分布 (Chi-square Distribution): 確率変数 X は 0 より大きい値をとる。このとき, 確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は,

$$f(x) = \begin{cases} \frac{1}{\Gamma(\frac{k}{2})} 2^{-\frac{k}{2}} x^{\frac{k}{2}-1} e^{-\frac{1}{2}x} & x > 0 \text{ について} \\ 0 & x \leq 0 \text{ について} \end{cases}$$

となる。ただし, $t > 0$ について, $\Gamma(t) = \int_0^{\infty} x^{t-1} e^{-x} \mathbf{d}x$ とする (ガンマ関数と呼ばれる)。

自由度 k のカイ二乗分布 ($\chi^2(k)$ 分布) と呼ばれる。

密度関数になるための条件 (講義ノート P.67, 2,3 行) を確認する。

- $f(x) \geq 0$ (明らか)
- $\int f(x)dx = 1$ (証明略, かなり難しい)

t 分布 (t Distribution): 確率変数 X は $-\infty$ から ∞ の値をとる。このとき, 確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は,

$$f(x) = \frac{\Gamma(\frac{k+1}{2})}{\Gamma(\frac{k}{2})} \frac{1}{\sqrt{k\pi}} \left(1 + \frac{x^2}{k}\right)^{-\frac{k+1}{2}}$$

となる。ただし, $k > 0$ である。

自由度 k の t 分布 ($t(k)$ 分布) と呼ばれる。

密度関数になるための条件 (講義ノート P.67, 2,3 行) を確認する。

- $f(x) \geq 0$ (明らか)
- $\int f(x) dx = 1$ (証明略, かなり難しい)

F 分布 (F Distribution): 確率変数 X は $-\infty$ から ∞ の値をとる。このとき, 確率変数 X の密度関数 $f(x)$ は,

$$f(x) = \begin{cases} \frac{\Gamma(\frac{m+n}{2})}{\Gamma(\frac{m}{2})\Gamma(\frac{n}{2})} \left(\frac{m}{n}\right)^{\frac{m}{2}} \frac{x^{\frac{m}{2}-1}}{\left(1 + \frac{m}{n}x\right)^{\frac{m+n}{2}}} & x > 0 \text{ について} \\ 0 & x \leq 0 \text{ について} \end{cases}$$

となる。ただし， $m > 0$ ， $n > 0$ である。

自由度 m ， n の F 分布 ($F(m, n)$ 分布) と呼ばれる。

密度関数になるための条件 (講義ノート P.67, 2,3 行) を確認する。

- $f(x) \geq 0$ (明らか)
- $\int f(x) dx = 1$ (証明略, かなり難しい)

4.2 期待値 (P.52)

確率変数 X のある関数 : $g(X)$

定義 :

$g(X)$ の期待値 $\mathbf{E}(g(X))$:

$$\mathbf{E}(g(X)) = \begin{cases} \sum_i g(x_i)p_i = \sum_i g(x_i)f(x_i), & \text{離散型確率変数} \\ \int_{-\infty}^{\infty} g(x)f(x)\mathbf{d}x, & \text{連続型確率変数} \end{cases}$$

1. 確率変数 X の平均 $\mathbf{E}(X)$

$\implies X$ の期待値, $g(X) = X$

$$\mathbf{E}(X) = \begin{cases} \sum_i x_i f(x_i), & \text{離散型確率変数} \\ \int_{-\infty}^{\infty} x f(x) \mathbf{d}x, & \text{連続型確率変数} \end{cases}$$

$= \mu, \quad (\text{または}, \mu_x)$

2. 確率変数 X の分散 $\mathbf{V}(X)$

$\implies (X - \mu)^2$ の期待値, $g(X) = (X - \mu)^2$

$$\mathbf{V}(X) = \mathbf{E}((X - \mu)^2)$$

$$= \begin{cases} \sum_i (x_i - \mu)^2 f(x_i), & \text{離散型確率変数} \\ \int_{-\infty}^{\infty} (x - \mu)^2 f(x) \mathbf{d}x, & \text{連続型確率変数} \end{cases}$$

$$= \sigma^2, \quad (\text{または}, \sigma_x^2)$$

確率変数 X の分散 $V(X)$

$\Rightarrow X$ の確率分布の確率関数 (離散型の場合), または, 確率密度関数 (連続型の場合) の範囲が広ければ, $V(X)$ は大きい。

いくつかの公式：

1. a, b を定数とする。

定理 4.1 (P.54) : $\mathbf{E}(aX + b) = a\mathbf{E}(X) + b$

証明：

X が離散型確率変数の場合，

$$\begin{aligned}\mathbf{E}(aX + b) &= \sum_i (ax_i + b)f(x_i) \\ &= a \sum_i x_i f(x_i) + b \sum_i f(x_i) \\ &= a\mathbf{E}(X) + b\end{aligned}$$

途中で， $\sum_i f(x_i) = 1$ に注意

X が連続型確率変数の場合 ,

$$\begin{aligned}\mathbf{E}(aX + b) &= \int_{-\infty}^{\infty} (ax + b)f(x)\mathbf{d}x \\ &= a \int_{-\infty}^{\infty} xf(x)\mathbf{d}x \\ &\quad + b \int_{-\infty}^{\infty} f(x)\mathbf{d}x \\ &= a\mathbf{E}(X) + b\end{aligned}$$

途中で , $\int_{-\infty}^{\infty} f(x)\mathbf{d}x = 1$ に注意

2. 定理 4.2 (P.55) : $\mathbf{V}(X) = \mathbf{E}(X^2) - \mu^2$

証明 :

$$\mathbf{V}(X) = \mathbf{E}((X - \mu)^2)$$

$$\begin{aligned} &= \mathbf{E}(X^2 - 2\mu X + \mu^2) \\ &= \mathbf{E}(X^2) - 2\mu\mathbf{E}(X) + \mu^2 \\ &= \mathbf{E}(X^2) - \mu^2 \end{aligned}$$

途中で , $\mu = \mathbf{E}(X)$ に注意

3. a, b を定数とする。

定理 4.3 (P.55) : $\mathbf{V}(aX + b) = a^2\mathbf{V}(X)$

証明 :

$\mathbf{E}(aX + b) = a\mu + b$ に注意して ,

$$\begin{aligned} \mathbf{V}(aX + b) &= \mathbf{E}\left(\left((aX + b) - \mathbf{E}(aX + b)\right)^2\right) \\ &= \mathbf{E}\left(\left(aX - a\mu\right)^2\right) \end{aligned}$$

$$= \mathbf{E}(a^2(X - \mu)^2)$$

$$= a^2\mathbf{E}((X - \mu)^2)$$

$$= a^2\mathbf{V}(X)$$

を得る。

例：サイコロ投げ

確率分布：

X の取る値	x_1	x_2	x_3	x_4	x_5	x_6	計
	1	2	3	4	5	6	
その確率	p_1	p_2	p_3	p_4	p_5	p_6	1
	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	

平均：

$$\begin{aligned}\mathbf{E}(X) &= \sum_{i=1}^6 x_i p_i \\ &= 1 \times \frac{1}{6} + 2 \times \frac{1}{6} + 3 \times \frac{1}{6} \\ &\quad + 4 \times \frac{1}{6} + 5 \times \frac{1}{6} + 6 \times \frac{1}{6} \\ &= \frac{7}{2}\end{aligned}$$

分散：

$$\begin{aligned}\mathbf{E}(X^2) &= \sum_{i=1}^6 x_i^2 p_i \\ &= 1^2 \times \frac{1}{6} + 2^2 \times \frac{1}{6} + 3^2 \times \frac{1}{6} \\ &\quad + 4^2 \times \frac{1}{6} + 5^2 \times \frac{1}{6} + 6^2 \times \frac{1}{6}\end{aligned}$$

$$= \frac{91}{6}$$

を利用して,

$$\begin{aligned} \mathbf{V}(X) &= \mathbf{E}(X^2) - \mu^2 \\ &= \frac{91}{6} - \left(\frac{7}{2}\right)^2 = \frac{35}{12} \end{aligned}$$

その他:

1. 標準偏差: $\sigma = \sqrt{\mathbf{V}(X)}$

2. 確率変数 X の標準化 (基準化): $Z = \frac{X - \mu}{\sigma}$

3. 定理 4.4 (P.56) : $\mathbf{E}(Z) = 0, \mathbf{V}(Z) = 1$

証明 :

定理 4.1 (P.54), 定理 4.3 (P.55) について , $a = \frac{1}{\sigma}, b = -\frac{\mu}{\sigma}$ のケースを考える。

$$\begin{aligned}\mathbf{E}(Z) &= \mathbf{E}\left(\frac{X - \mu}{\sigma}\right) \\ &= \frac{1}{\sigma} \mathbf{E}(X - \mu) \\ &= \frac{1}{\sigma} (\mathbf{E}(X) - \mu) \\ &= 0\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\mathbf{V}(Z) &= \mathbf{V}\left(\frac{X - \mu}{\sigma}\right) \\ &= \frac{1}{\sigma^2} \mathbf{V}(X) \\ &= 1\end{aligned}$$